

# 桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 45 号

発行日 2020.10.16

発行者 桜船会

発行責任者 木村允紀



▲北アルプス・白馬大池瞬彩

提供 安西良矩氏（会員）

いきいきライフ：バードウォッチング	塩谷俊夫
いきいきライフ：私の師	登尾洋一
いきいきライフ：体力維持とボケ防止	佐藤顕也
いきいきライフ：情報通信と俳句とイノベーション	三宅 真
いきいきライフ：入社 50 年目の同期旅行	小玉 繁
いきいきライフ：照明事業との関り	津谷公三
表紙写真の解説	安西良矩
第 28 回総会書面表決結果報告	事務局長 森田 茂
活動報告：同好会報告	富山勝己 市川洋子
事務局だより：会員動向・編集後記	事務局・編集班

2006年に会社を退職した後、約8年間茅ヶ崎市の公民館に嘱託として勤めました。公民館は社会教育の場の一つであり、成人から老人までの幅広い方々が自主的に集い、学んでいます。当時は、1947～1949年に生まれたいわゆる団塊の世代の方々の多くが、地域社会へ帰ってくるとの見込みがありました。

この方たちの地域デビューを支援したいと思い、この公民館勤めを選びました。

私もそれ迄は、茅ヶ崎に住みながら茅ヶ崎について何も知りませんでした。今度は自分自身にとっても正に「地域デビュー」でした。

公民館では、主に講座の企画を担当してきました。公民館主催の講座では、どのような内容を、どのような講師の方を招いて実施するのか、講師の方と打ち合わせを重ねながら作り上げて行きます。

講座のテーマは、『講座を人に勧めるからには自分自身も楽しいと思えるものでなければいけない』との信条の下、自分の興味のあるものを選んできました。

退職して新しく地域に戻ってくる方たちが、地域を知り地域活動に参加するにあたり少しでも支援になるようにと期待して講座を実施してきました。

また公民館では公民館主催事業の他、地域の方たちの自主的な活動の支援も行っています。



それらの講座の中でも公民館を退職した今も続けているものにバードウォッチングがあります。

バードウォッチングと言っても大きなカメラを担いでいくような、本格的なものではありません。双眼鏡を片手に茅ヶ崎や藤沢、鎌倉、平塚等の近隣の川沿いを歩きまわっています。

一番のお目当てはカワセミです。大きさはスズメより少し大きい位で、頭よりも長いくちばしを持っています。光沢のある瑠璃色の翼が特徴的で、胴体の上面は緑、腹は柿色、のどと腹の脇が白くなっている、非常に綺麗な鳥で、「飛ぶ宝石」とも言われています。カワセミを見つけるとその日は、一日得をしたような気分になります。

カワセミは藤沢市の市の鳥になっています。ちなみに茅ヶ崎市はシジュウカラ、寒川町はダイサギ、神奈川県はカモメです。

数年前まではカワセミも小出川、千の川、金目川、引地川等の川辺でよく見ることができました。

しかし、最近は堤の工事や、川底の浚渫工事などによりあまり見ることができなくなりました。

カワセミは川沿い等の水辺に棲んでいます。餌を見つけるとさっと飛び上がり水上でホバリングして、狙いを定めて真っ直ぐに水面に飛び込み、小魚などを仕留めるところは見事なハンターです。

また、カワセミは川面を「ちいー」と鳴きながら一直線に飛んでいるのを見かけることがあります。

その動きは、鳴き声と共にカワセミを探す手掛かりとなります。

他にもう一種挙げると・・・。アオサギです。

こちらは小出川や千の川等でも多く見受けられる鳥です。頸（くび）を伸ばしている時と、縮めている時とでは別種の鳥かのように見えます。また、アオサギは頸を伸ばすとツルと見間違えほど大きく、色も形も綺麗な鳥です。日本のサギ類の中で一番大きな鳥で、体色も比較的はっきりしていますが、景色に同化して見分け難いこともあります。

更に、その姿、形からは想像もできないような「ぐあー」という、首を絞められた時のような鳴き声にびっくりさせられることもあります。

アオサギは待ち伏せして、魚やカエルなどを捕食します。川の中に立って餌をじっと待ち、ピクリとも動かない立ち姿は何処か「哲学者」という趣があります。特に冬場の寒い時には、その感が一層強く感じられます。



小出川の河岸にて

川面を見ながら鳥を探して歩くと「ウォーキングの面白さ」も倍加します。

鳥の思わぬ動きを見つけては楽しんでいます。

今の私が有るのは『誰かのおかげ』多くの師との巡り合いが有ります。

1969年に旧船電に入社し、研修の一環で鉄の加工（溶接、鍛造、熱処理、ヤスリ仕上げなど）をN村班長より教わりました。

銅板から鍋や器を作る鍛金加工にずっと興味が有り、退職した翌週から半年間工房に通い教えてもらいました。工房で使用したキノコ状の台金やトンカチを作りたくて、ふいごを自作、鋼材を購入し加熱、ハンマーでの鍛造を繰返して形状を作り、熱処理、ヤスリ、ペーパー、バフで仕上げ数本製作しました。これはなんと42年前に教えてもらった事がそのまま趣味に生きました。熱処理に必要な鋼材の温度とその色が網膜にはっきりと焼き付いていました。

小学校低学年の時に校長先生の指導で書道を習い始めたのですが、先生の字がとてもきれいで感動し、文字が好きになりました。添削でここはこういう風にと赤筆で上書きしてくださった字形にも感動し、その形になるまで何度も何度も練習し、三重丸をもらった時は嬉しさ最高。字を書く事が好きになったのは校長先生のおかげです。今でも字は丁寧に書くようにしています。更に先輩Y田さんの書いた図面を見て2度目の感動です。線、数字、と文字が全て整然と書かれていました。このイメージは設計製図業務に大いに役立ちました。今はCADやパソコンで手書きは少なくなりましたが、現在マンション管理員をやっている中でその業務日誌、報告書等では0.28mmのペンで丁寧な手書きを楽しんでおります。

配属研修が終わり設計実務では、麻雀をこよなく愛するI崎さんが師匠です。当時蛍光ランプ製造の自動化計画が進行中で、新12工場が出来、自動機がどんどん設計製作されていた時期です。その工程の一つ直管ランプのベース自動マウント機の設計を担当し、設計製図は勿論、付随する電気配線図、エア配管図とそれぞれのタイムチャートを教えていただきました。師匠は定時近くなると麻雀の役と符、点数の教え方を教えてください毎日宿題も出ました。当時独身寮に居ましたので行き帰りに、にー、よん、ぱー、いちろく、ざんにー、ろくよんと暗証していました。おかげで麻雀仲間に入れてもらえ先輩方と



も交流が出来、当時の麻雀ブームを楽しませてもらいました。

独身寮の照心寮には長年お世話になりましたが、当時の管理人さんに船、磯、夜釣りと、誘っていただき釣りの楽しさを教えていただきました。船釣りでは、年2回の恒例行事で総務を含めた20人位で出かけ良く面倒見ていただきました。おかげさまで釣り好きは今でも健在で、MHK（三菱電機ホーム機器）のOB会の釣り愛好会主催で年に数回、家族も含めた15人位で江の島沖での船釣りを楽しんでいます。

MHKへ出向した時に「このあたりはゴルフ場も多く手軽に行けますよ」と誘われ続けていましたし、ゴルフの話題も多かったので始めようと思いましたが、しかし、恥ずかしさもあり「教えて下さい」と言い出せずにいました。ドライバーだけを1本買いその足で練習場に行きました。練習場も初めてでしたので見学しているうちに、ドライバーで無理なくきれいに飛ばしている人が目に留まりました。後ろの打席が空くのを待って入り、握り方、スタンス、スイングをしばらく座って見ていました。打席に入りその人に合わせて素振りをしばらくやり、球を打ってみました。これが私のゴルフ歴のスタートで皆様のお仲間に入れてもらいました。師は名前も知らない前の打席の人でそのフォームが今でも脳裏にあり感謝しています。

私は北海道で生まれ育ちました。家が酪農をやっており、父が牛舎やサイロを作ったり、発動機で色々な加工機械を動かしたり、農機具の修理をしているのを小さいころから見て育ちました。ノコギリを始め色々な工具が有り、父親の真似をしていじくりまわっていたので、自然に図工大好き人間になりました。今で言うDIY大好きは、まさに父のおかげで規模は小さいのですがピザ窯を作りました。

他にまだまだ多くの師のおかげで今が有りますが、そんな私の何かを師としてくれた人が一人でもいたならば嬉しいですが、どうでしょうかね。



自作のピザ窯（左）とバーベキュー場



早いもので80歳がもうすぐになってしまった。入社して最初の配属が旧船電で18年ほどお世話になった。次に京電―三菱電機ホーム機器株式会社と移り、今は最後の勤務地の近くの熊谷に住んでいる。夏の暑さでいつも話題になるところでもある。終の棲家のつもりではなかったが、仲間も出来てずる今になってしまった。関東平野の北部であるが、田舎暮らしの良さもあり住めば都である。

桜船会の会員の中では最も遠い1人かもしれない。それでも総会などには出来るだけ参加させてもらっている。やっぱり最初にお世話になった船電が懐かしい。ただ当時お世話になった先輩方が少なくなってきたのがいささか寂しい。

今は月並みですが、朝6時前に家を出て2.5kmほどを2代目の柴犬と散歩するのが日課であり、帰りに畑に立ち寄るのがいつものコースである。犬の糞も入れた堆肥も作っており、愛犬は生野菜も食べるのでさしずめ循環型農業というところである。

畑は60坪ほどで耕運機を使わず手作業で耕しているので結構な運動になる時もある。種をまき、芽が出て成長してゆくのは楽しいものであるが、老夫婦だけには十分すぎる広さでありミカンなどの果物、芍薬などの花も植えている。息抜き場所であり、外出自粛の時の逃げ場所でもある。

また体力維持のためと言い訳しつつ仲間と下手なゴルフを楽しんでいる。同年代の仲間なので皆が同じように体力が落ちてきており飛ばなくても気にすることはない。雑談しながら楽しめればいい。

### ボケ防止と仲間づくり：

多少の頭の体操として「古文書解説」、「写真俳句」などのサークルに入っている。仲間づくりとボケ防止である。

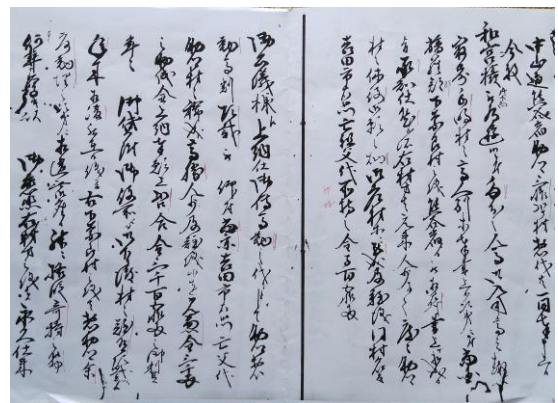
熊谷は中山道の宿場のあったところで古文書解説

サークルは、当時の名主などの名家が保存している主に江戸時代後期の古文書をテキストにして解説し、時代背景などを調べてみるもので、サークルには名家の末裔が何人か居る。

多少でも読めれば地域の歴史の一端が分ると安易に入会してみたが、くずし字はなんという字か、何が書いてあるのか、さっぱり分からず苦勞する。解説されているものを数多く読んで同じ文字、文を覚えるしかないようだ。記憶力のよいもっと若いうちからやればよかったと思うが後の祭りである。ポーと生きてきたツケである。

沢山の古文書が残っているのは皇女和宮の將軍徳川家茂への降嫁行列に関係したものである。これは中山道全宿場の最大のイベントであり、多分どの宿場でも同じようになりかなりの古文書が残っているものと思われる。なにしろ行列は、6000人+警備5000人で、長さは50kmにもなり、25日かけて江戸入りしたものである。こまごまとした幕府の指示、街道沿いの広い範囲までの準備、徴用などが記されている。

他にも読めれば興味ある古文書が多いが時代背景など理解するところまで中々いかないのが実態であるが、ボケ防止に少しは役立っていると勝手に思っている。



【江戸時代の古文書の例】

他にも写真俳句などいろんなサークルに顔を出してみると、それぞれに熱心に取り組んでいる人がいるので、たまに刺激を受けるのもいいものだ。

私にとって各サークルは、まじめに取り組んでいるというよりは、どれも仲間との交流の場である。

以上取りとめない近況の一端ですが、幸い健康面では大きな問題もなく元気に過ごせている。

## 情報通信と俳句

三菱電機在職中は、通信技術の開発に携わってきました。情報通信では、送るデータの量を少なくして、多くの情報を正しく伝えることが大切です。

一方、俳句は「五・七・五」の十七音を使って、豊かなメッセージを伝えます。情報通信と俳句には共通するところがあると言えるでしょう。

### 松尾芭蕉と草加市

埼玉県草加市は、江戸時代の日光街道の宿場町であり、松尾芭蕉ゆかりの町でもあります。『おくのほそ道』に「(深川を出発した) 其(その)日、漸(ようよう)早加(そうか)と云(いう)宿にたどり着にけり」と書かれている町です。

東武鉄道スカイツリーラインの草加駅で電車を降りると、綾瀬川に沿って旧日光街道の松並木が続いています。草加松原と呼ばれていて「おくのほそ道の風景地」のひとつとして、国の名勝に指定されています。

カメラを持って草加松原を散策したことがありました。札場河岸公園(ふだばかしこうえん)という公園があり、公園の中に芭蕉のブロンズ像がありました。撮りました写真のように、桜を背景にした芭蕉がおくのほそ道へ旅立とうとしていました。



### 『Q&Aで読み解く情報通信技術の進化』出版

草加市に獨協大学があります。現在、株式会社エムテックで働きながら、獨協大学で非常勤講師として情報通信の講義を行っています。受講生との質疑応答を踏まえて、情報通信技術の歴史的なことから最近の話題までを、一問一答形式で一冊の本にまとめました。『Q&Aで読み解く情報通信技術の進化』というタイトルの本です。昨年(2019年)11月に近代科学社から出版されました。

本の中から話題を2つ紹介します。

Q: 昔はアナログ通信の時代であって、今はデジタル通信の時代なのですか？

A: 現在はデジタル通信が広く使われています。よく古いものをアナログと呼びますが、昔の通信がアナログ通信だったわけではありません。

戦国時代に、武田信玄が狼煙を使って情報を伝えていました。狼煙が見えるか見えないかという2種類の情報を伝えるのは、0と1の2種類の情報を伝える現在のデジタル通信と同じことです。私たちの音声というアナログの信号を伝える電話機を除いて、昔からデジタル通信が広く行われてきました。

Q: 情報理論は、どのように使われてきたのですか？

A: 情報理論によって、情報は抽象的なものではないことがわかりました。情報には情報量というものがあり、情報量を使って情報の多さを測ることができることがわかりました。そして、車両の重量と台数を使って道路と橋を設計するのと同じように、情報量を使って情報通信のネットワークを設計する時代が始まりました。

### イノベーション

情報通信では、さまざまな技術が多くの人々によって開発されて、イノベーションが続いてきました。俳句は、江戸時代に言葉遊びの芸事だったのが、芭蕉によって気持ちを伝える詩のような芸術に高められたと言われています。芭蕉は俳句の新しい境地を拓いたイノベータだったのでしょうか。

「古池や蛙飛び込む水の音」という、有名な俳句があります。芭蕉は最初に「蛙飛び込む水の音」と下の句を詠んで、その後上句を「古池や」としたのだそうです。

この俳句の主題は、古池というわびさびの情景ではなく、蛙が飛び込む情景にあるのでしょうか。冬が過ぎ、生き物が活動を始める春の季節が訪れて、古い池が新しい生命を迎え入れる情景が謳われているのでしょうか。自然の持つ生命力とイノベーションが謳われているように感じます。

芭蕉は、生涯にわたって自然のさまざまな姿を俳句に詠み続けました。芭蕉の姿勢に学び、自然に学びながら、生きてゆきたいと考えています。





旧船電 69 年入社同期 8 名で入社 50 年目の節目の韓国済州島旅行を 3 日間の日程で楽しんだ。

我々の同期は、忘年会、海外旅行などで入社以来継続的に旧交を深めてきている。

出発に先立ち幹事の永井さんと、韓国食文化に触れに大船仲通りの韓国料理店を訪れ、マッコリで乾杯しながら旅行に思いを馳せた。マッコリはアルミ製のカップで出され小学校時代の給食を思い出した。

2019 年 4 月当日、同期と成田空港で再会し、搭乗手続き後、まずは生ビールで乾杯し軽い昼食を取り、空路済州島へと向かった。空港では流暢に日本語を話す女性のガイドさんが迎えに来ており、マイクロバスで早速市内観光に出かけた。

西海岸に突き出た龍頭岩を見て、民族自然史博物館では済州島の民俗史などを見学した。

次は済州島の台所と言われる 300 以上のお店が並ぶ東門在来市場に行った。刺身を始め沢山の食材が並んでいて、みんなで冷やかしながら見物するのも楽しいものである。夕食は「黒豚カルビ」、まずは本場の生マッコリで乾杯し分厚いカルビ焼肉を堪能した。こちらでもカップはアルミ製でした。話しは尽きず記念撮影をしてホテルに向かい、ほろ酔い気分でチェックインした。



全員で「城山日出峰」にて（筆者右から 2 番目）

2 日目、アニョハセヨ！朝食は、ビュッフェで日頃の生活よりゆっくり食べお腹いっぱいである。ガイドさんの島の歴史、生活などの説明を聞きながら世界遺産の城山日出峰に向かい、「頂上まで行くと火口が見える」とのことで歩き始めた。最初はなだらかな

登り坂でしたが最後は急な階段で、古希を間近に控えている我らにとっては難儀なウォーキングだった。当然翌日は筋肉痛でした。しかし、頂上の見晴台からは緑の噴火口とエメラルドグリーン色の海、真っ青な空のコントラストが疲れを吹き飛ばしてくれた。



城山日出峰にて（筆者左）

次の城邑民俗村は韓流ドラマの「チャングムの誓い」のロケ地になった所で、昔の生活がそのまま残されている。現地のお姉さんは、話しがおもしろく黒豚の昔の餌やりの様子を詳しく説明してくれた。昨夜「黒豚カルビ」を食しておいて良かったとみんなで大笑いした。ここでは漢方薬の試飲販売もしており、その饒舌さに惑わされ五味子茶の飲料、冬蟲夏草の丸薬などつい買わされてしまった。効き目は？

ロケ地を後に海岸の岩場に出来た柱状節理、仏教寺院の薬泉寺と周った。次に向かった通称おばけ道路（神秘の道）は、上り坂のように見えて実は下っているという目の錯覚による不思議な道路でした。

昼食は甘鯛の干物と焼肉、夜は別注のアワビの刺身と海鮮鍋、食事のたびにマッコリで乾杯である。

最終日、ホテルは海沿いにあり日の出が見えるオーシャンビューでした。幹事さんありがとう。

ホテルをチェックアウト後お土産の買物ツアーに出かけた。済州島はみかんの産地でみかんの使ったチョコやクッキーのお土産が多かった。

私は 25 年ほど前ラスベガスに出張した際、免税店でお土産に買った家内の腕時計の調子が最近悪いと聞いていたので奮発して、また免税店でお土産に腕時計を買った。私より長持ちすると思う。

空港でお世話になったガイドさんにお礼を述べて済州島を後にした。2 時間ほどで成田空港に着き、空港で少し早めの夕食を取り生ビールで乾杯、3 日間の旅の無事と帰国を喜んだ。次の旅行報告会での再会を約束し、成田エクスプレスで帰路についた。

「この同期会の幹事を永年続けてくれた桜船会会員の永井頼光さんが 2020 年 1 月に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。」

桜船会の皆様、お元気にお過ごしのこと、お喜び申し上げます。

津谷と申します。馴染みのない名前かと思えます。

従いまして、表題の通り照明事業の関わりも含め自己紹介をさせていただこうと思えます。入社は1972年で現在70歳です。

入社は、本社冷熱事業部の管理部でした。しかし、1年半で長電冷熱営業課に転任。

管理部での思い出は、部長であられた廣瀬様（後の副社長）とのGOLF対抗戦です。会社のコンペで実施したのですが、85近辺の2ストローク差で敗戦。残念。でも良かったあ。

長電では空調機（チラー）を担当、場所がら立会検査などを含めお客さんが多く、夜の長崎で過ごした時間は長かったように思います。但し、2年半で又元の管理部に復帰。短期滞在後、海外第三事業部に異動、東南アジアの冷熱事業の黎明期を経験、中国向けにパッケージエアコン200台余の初受注もありました。

その後、新事業部門に異動、主に米国をターゲットとして商材を展開していたら「現地ですべてこい」という話になり、1986年に米国の販売子会社に転任となりました。この商材の一つが電球型蛍光灯の“ぴかいちくん”でした。南カリフォルニア電力会社への販売がなされました。

またこの時期に旧商研において開発中であった、ホームオートメーションシステムをCES（米国の民生用電子機器の見本市）で大々的に展示し技術PR。

しかし、一年後同じく新事業であった静止画テレビ電話のLUMA社に転任。第二世代の製品を企画。10万台生産を計画し、初期入手オーダー6.5万台と好調にスタートしたが、再販が思い通りに進まず、生産を7万台弱で停止。結論はやはり動画でないと駄目という事でした。あの時代にスマホを作る技術は残念ながら有りませんでした。最終処理を行い帰国。

また冷熱事業部で営業部課長として2年半勤務。代理店経由の営業を経験後、中電に転任。1年営業部次長を勤めた後、何故かタイ国KYW社（家電の販売会社）社長として転任となりました。

三菱電機はタイに早く進出しておりMITSUBISHIは人気のブランドです。出向して1年順調に進んで



おりましたが、何と1997年アジア通貨危機に遭遇し、2年連続売上20%ダウンが続きました。借りていたドルの為替予約を2/3行っていたので、何とか赤字にならずに乗り切る事が出来ました（経理を担当の副社長に感謝）。但しCTVを空調ディーラーに販売し大西副社長から酷く怒られました。大反省。

戻った場所がMOL（三菱電機オスラム社）でした。営業部長としてランプの器具メーカー、市販、メンテルート等への販売実施。全て初めての体験でした。4年弱活動しましたが、器具メーカーではコイズミ照明の梅田社長、陣営内ですと菱和ライテックの永田社長、その先のディーラーのブライツ社の上田社長含め皆様に大変お世話になりました。永田社長とのゴルフの争いも楽しい思い出です。会社としても利益が一番出ている時代だったように思います。

その後、冷熱事業部に再度戻り、販売会社の再編に係わり、現在の形のLE社（住環境システムズ）、LN社（ライフネットワーク）が創設されました。再編後はLE東京社で活動、ここが最後の勤め先かなと考えていたところ、急遽期の途中でMOL/OML（オスラムメルコ社）の社長として戻ることとなりました。

ここでは5年半活動したわけですが、1)ランプからLEDへの移行が急激に進み始めた期間であった事、2)オスラム社のLED化の動きが市場をリードするほどではなかった事、3)東北大地震等で売上が大きく落ち込む厳しい期間でありました。

損益的には、ほぼゼロでありましたが、両親会社からすると満足できる結果ではありませんでした。

この期間にて三菱電機とオスラム社の合併で新会社創設という話もありましたが、最終的に合意に至らず、オスラム社とも袂を分かち事となりました。

その結果として、新生三菱電機照明（株）が創設され皆様の尽力により大きく発展している訳です。

三菱電機照明には6ヶ月副社長でおりましたが、2013年4月より三菱電機冷熱機器販売（株）に社長として転任。冷販社には4年おりましたが、その期間LED照明を一つの販売アイテムとして展開、拡大出来た事は嬉しい事でありました。

三菱電機の照明事業が益々発展されます事と共に桜船会が益々楽しい会として繁栄されます事を祈念して筆を置かせていただきます。

現役時代から毎年行っていた夏の北アルプス山行ですが、リタイア後はもっとじっくり山の魅力に浸りたいと、山の撮影を主眼とする山行に切替えました。過去に登った山々から、印象の強かった場所を選び単独行で気ままに時間をかけ撮り歩いております。

表紙の写真は、昨年北アルプス白馬岳稜線と白馬大池周辺を撮り歩いた時の一枚で、「梅池自然園写真KUR A部フォトコンテスト」2019年度山岳部門入賞作品です。

このコースは過去何回も行っており、毎回新たな情景に出会い奥の深さを感じております。早朝ヘッドライトを頼りにひとり稜線の撮影スポットに向かい三脚を据えます。満天の星空を撮り、やがて遠くの山並みが明るくなり、ガスと朝雲が走り、刻々と変わる明け行く山並みの情景にひたすらカメラを向け続けます。まさに私の至福の時間です。しかし写真撮影山行は、山の装備に撮影機材が加わるため、だんだん老体にはきつくなるのが悩みです。

白馬大池：標高 2379m の山上湖、魚類はいないがクロサンショウウオが生息、周囲は残雪と高山植物が豊富で、近くのハイマツ帯には多くの雷鳥が生息。

事務局

第 28 回総会書面表決結果報告

事務局長 森田 茂

5月に予定していましたが第28回総会は新型コロナウイルスの影響で中止とし、書面表決としました。

会員各位には、総会資料に同封して書面表決用の葉書を送り、第1号から第5号議案につき賛否を確認しました。返信された葉書は、142通で会員数の過半数に足していましたので総会は成立しました。

各議案の議決の結果、5議案全てが賛成多数で承認されました。

2020年度の役員は

- 会長 木村允紀
- 副会長 市川洋子 富山勝己
- 事務局長 森田茂
- 幹事 馬場景一 皆川良司  
伊藤與志夫 橋本栄次
- 顧問 萩原大義
- 会計 伊藤善貞
- 会計監査 丸屋完

今後の活動予定につきましては、会員の皆様の安全を考慮し、新型コロナウイルス感染状況に応じて判断していきます。

ハイキング同好会とデジカメ同好会が活動中で、詳細は『桜船会ホームページ』の同好会に報告していますので参照ください。写真は『鶴見七福神巡り』



- 1) 『鶴見七福神巡り』 2020.1.10(金) 参加9名  
\* 横浜線・大口駅-松陰寺-安養寺-正泉寺-東福寺-総持寺-鶴見神社-熊野神社…約14km/4時間
- 2) 『神武寺から鷹取山』 2019.12.13(水) 参加10名  
\* 神武寺の薬師如来は、33年に1度ご開帳の秘仏ですが、煤払いのこの日に拝顔出来ました。
- 3) 『表丹沢県民の森』 2019.10.7(月) 参加8名  
\* 渋沢駅からのバス利用で県民の森まで林道を歩き、黒竜の滝を見て、大倉バス停まで。

事務局

会員動向 (2020.4.21~2020.9.30)

■会員動向 (敬称略)

- ・会員数：206名
- ・入会者：1名 西川 浩司
- ・退会者：6名  
石川 泰 市川 健一 藤田 博  
三上 龍夫 水戸部武士 青木 尚
- ・物故会員：1名 郷原 重雄  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記

今年度より編集担当が皆川と橋本に変更になりましたので、よろしくお祈りします。コロナ禍で会の行事が中止でも桜船会だよりは発行を継続します。

執筆者が不足しておりますので、会員の皆様には是非投稿いただきたくお願い致します。

■桜船会 URL <http://www.ousenkai2013.com/>

編集責任者：皆川良司  
編集委員：橋本栄次  
印刷所：(株)さんこうどう

